(1) 日本国特許庁 (JP)

10特許出願公開

⑩公開特許公報(A)

四255—116369

Mint. Cl.3 A 63 B 55/08 A 47 C 9/10 B 62 B 1/12 識別記号

庁内整理番号 6970-2C 6417-3B 6833-3D

63公開 昭和55年(1980)9月6日

発明の数 1 審査請求 未請求

(全11頁)

❸折りたたみ自在の三脚台

者

@特

昭54-107295 願

20出

の発 しゅうしゅう

昭54(1979)8月24日 願

優先権主張

❷1978年8月25日❸イギリス

(GB) 334695/78

明

ピーター・チヤールズ・ホーク

ス

イギリス国ワーウイクシヤー・

ラグビー・プラウンスオーパー ・エステート・ヒーリー・クロ ーズ10

アンドリユース・マクラーレン の出願 人

・リミテツド

イギリス国ノーザンプトン・ロ ングパツクピー・ステーション

・ワークス無番地

仍代 理 人 弁理士 永田秀男

明細書の浄書(内容に変更なし)

発明の名称 折りたたみ自在の三脚台

特許請求の範囲

顕端19と足端20とを有する伸長作動部 材18が、第3脚部6代連結されており、酸作 動部材の足燥20が該部3期配6の頭端11に 近づき又選ざかる様になつている二つの位位の 似を終第3脚部に瞬速して運動する如くになし ロック装置21を設けて、数第3期部6に擬す して、数作動部材18をその第1位優に解放自 在に固定できるようになし、鮫作動部材18の 足端に隣接するように該作動部材18上に第1 及び餌2の下方旋回部材22と28とが支持さ れており、鉄部1及び第2下方旋回部材22と 23 K 失々係合する顕端 28 と 27 とを有し、 又第1及び第2脚部4と5とに失々枢燈された る足輪28と29とを有する第1及び第2連結 部材24と25とを設け、第2単一旋回部材20 が試作動部材18化附滑されていて、酸作動部

材18を欲切つて延長する旋回船を有しており、 第3単一旋回部材31が第14一旋回部材17 によつて支持されており、釧御機構32を設け、 その顔路83と足端84とが失々紋錦2及び錦 3 単一旋回部材 3 0 と 3 1 とに連結されていて、 数第1及び第2脚部4と5とが、その第1及び 第2配金の間を旋回運動する間に、鉄第1単一 旋回部材17を餌1及び餌2位盤の間を移動さ せ、夫々該係1及び第2脚部4と5との旋回運 動の間、絃解1及び第2脚部4と5との顕微7 と9とに失々近づけたり盗のけたりなし、又鮫 481単一旋回部材17に垂直であり、かつ、紋 第2単一旋回部材30の旋回軸に平行に延長し ている1個の紬の回りを、鮫剣御機構32の足 始が旋回する間も、上記と同様に駄第1単一旋 回部材17をして眩笛1及び第2位置の間を移 助する如くになし、それによつて、数額1及び 第2 脚部 4 と 5 と、それらが第1配置にあり又 三即台1,2及び3がそれらの伸長位置にある 時は破壊1単一旋回部材17を、その第1位量